

食品からのダイオキシン類 1 日摂取量

厚生労働省



厚生労働省は、平均的な食生活を送った場合の食品からのダイオキシン類の1日摂取量と個別の食品中のダイオキシン類汚染実態について、2003年度調査を公表しました。それによりますと、日本人が食品から摂取するダイオキシン類の1日の量は、体重1キログラム当たり1.33ピコグラム(以後pgTEQ/kgbw/日)と推定され、耐容1日摂取量(生涯にわたり取り込んでも健康に有害な影響が現れないと判断される量)である4pgTEQ/kgbw/日より低いとのこと。

傾向としては、01年度が1.63pgTEQ/kgbw/日、02年度が1.49pgTEQ/kgbw/日で毎年減少しています。

一方、国内産、輸入食品合計170試料を対象に実施した個別食品のダイオキシン類汚染実態調査では、最も濃度が高かったのは生鮮魚類で、55試料の平均濃度は食品1グラム当たり1.287ピコグラム(以後pgTEQ/g)でした。そのほかの主要食品のダイオキシン類濃度は、牛肉、豚肉、鶏肉の平均で0.075pgTEQ/g、牛乳、乳製品で0.001~0.139pgTEQ/g、ほうれん草、ちんげんさいから0.001~0.104pgTEQ/gが検出されました。

用語説明

TEQ(毒性等量):ダイオキシン類は通常混合物として環境中に存在するため、様々な異性体のそれぞれの毒性強度を、最も毒性が強いとされる2,3,7,8-TCDDの毒性を1とした毒性等価係数(TEF)を用いて表し、各同族体の量にそれぞれのTEFを乗じた値を総和した値です。

Kgbw:体重1キログラム

資料:2004年12月27日付 厚生労働省ホームページ

2005年1月7日付 化学工業日報 P.12

クロマト研究箇所 山田 悠貴

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

